

第17回 ちゅうでん教育振興助成（平成29年度）

報告書資料 一般 - 054

学校名・団体名	静岡市立観山中学校
HPアドレス	http://www.kanzan-j.shizuoka.ednet.jp/
コース	学校支援
活動・研究 テーマ	子供たちの未来を見据えたキャリア教育の実践
<p>〈活動・研究の意義、目的〉</p> <p>生徒は社会の加速度的な変化の中でも、社会的・職業的に自立した人間として、伝統や文化に立脚し、高い志と意欲を持って、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められている。本校ではこれを受け、キャリア教育の見直しを行い、予測できない未来に対応できるたくましい生徒の育成を図る教育プログラムの開発が必要であると考え、実践を始めた。</p>	

1 活動時期と内容

- 5月 第3回 働く人のお話を聞く会 7名 富士ゼロックス他 講師7名
地元企業の方7名をお招きして、仕事の厳しさややり甲斐についてのお話を伺った。
- 5月 職場体験学習 事業所90カ所にて実施
約90カ所の事業所において職場体験学習を行った。
- 5月 生き方講演会「ガンと向き合うガン患者を支える」 あげぼの園 星野紀代枝氏
乳ガンを患った経験のある方から当時の気持ちを伺うとともに、現在行っている、ガン患者を支える活動を通して考えたこととお話しいただいた。
- 6月 生き方講演会「思春期のセルフコントロール」 川野辺小児科医院 川野辺令恵氏
思春期を迎えた生徒に自分の心とどう向き合うかについてお話を頂いた。
- 7月 生き方講演会「助産師の私が今みなさんに伝えたいこと」 ami助産院 近藤亜美氏
子育ての楽しさや苦勞などについてお話を頂いた。
- 11月 平和学習 「戦争と静岡～静岡大空襲から学ぶ～」 静岡平和資料センター 講師12名
静岡大空襲についてのVTRを鑑賞後、7つの分科会に別れて体験談や命の尊さについてお話を伺ったり、戦争のない世界をつくるための話し合いが行われた。
- 11月 富岡町立富岡第二中学校、ふたば未来学園高等学校視察
震災から7年経つ福島県を視察するとともに、講演会の講師の依頼をした。
- 12月 生き方講演会「正見(しょうけん)」 常葉大学造形学部 山本浩二氏
先入観にとらわれずに物事を見ていくことの難しさと大切さについてお話を伺った。
- 1月 生き方講演会「福島のこれからについて一緒に考えよう！」富岡町立富岡第二中学校 村上順一氏
震災発生直後から現在までの双葉郡富岡町の様子や現在の課題についてお話を伺った。
- 2月 生き方講演会「編集者に学ぶ 情報発信のコツ」 すろーかる編集者 今村ゆい氏
地元の情報誌の編集に携わる方から情報の収集方法やまとめ方についてお話を伺った。
- 2月 富岡町立富岡第二中学校との交流教育事前打合せ「交流学习の進め方」

2 成果

[生徒感想]

「働く人のお話を聞く会」

- ・お話を聞いて、私は早く目標を決めていこうと思いました。
- ・最も強いものが生き残るのではなく、最も賢いものが生き延びるのでもない。唯一生き延びるのは変化できる者であるという言葉が印象に残りました。

「ガンと向き合う ガン患者に寄り添う」

- ・お話を聞いて、ガンを他人事のように考えていたけれど、それではダメだとわかりました。
- ・同じ体験をした人にしか分かち合えないことがあることが改めてわかった。

「思春期のセルフコントロール」

- ・行為や思考は変えられるけれど、生理反応や感情は変えられないから、生理反応や感情を変えるために、行為や思考を変えようと思った。
- ・皆に認められることがゴールではなく、自分自身に認められることが大切だとわかりました。また自分自身を知るために5つの欲求を満たすことが大切だとわかりました。

「助産師の私が今みなさんに伝えたいこと」

- ・母親も父親もいろいろ悩みを抱えながら赤ちゃんと一緒に成長していくのだと思いました。
- ・赤ちゃんを育てるのは一人ではなく、支えてもらいながら家族や親戚の方と一緒に育てていくということがわかりました。

「戦争と静岡 ～静岡大空襲から学ぶ～」

- ・戦意を喪失させるために、関係のない人を大勢殺すなんて酷いし、そのために綿密な準備をしているなんて恐ろしいと思いました。二度と戦争をしてはいけないし、平和はとても大事だとわかりました。その大切な平和をいつまでも守っていきたくです。
- ・静岡空襲が6月20日にあったこと。静岡空襲で静岡の町の3分の2が焼け野原になったことがわかった。安倍川花火大会が亡くなった人の魂を鎮めるためにあるということも知ることができてよかったです。

「正見(しょうけん)」

- ・先入観にとらわれるとその見方以外ができなくなってしまうので、人間の癖でつくってしまう虚像を本物だと思わず、まだ他の見方ができると思ったり、別の答えを見つけようと考えたりして先入観にとらわれないように生活したいです。
- ・目で見て、脳で処理する時に歪むこと。その歪みを正すことは難しいことがわかった。だから、一度見て

思ったことで、簡単に判断せず、もう一度見つめ直してから行動しようと思う。

「福島のこれからについて一緒に考えよう ～双葉郡富岡町などの話を通して～」

- ・東日本大震災の名前は聞いたことがあって知っていたけれど、実際どんな被害があったのかとか細かいところは知りませんでした。今日のお話を聞いて、自分は地震の怖さと日常の大切さを教わりました。自分は誰もいない町並み、誰ともすれ違わない町並みがとても印象に残りました。
- ・私は3. 11が起きたとき、小学1年生でした。あの時の私と同じくらいの子が、また今の私と同じくらいの子が自分たちの一番好きだった場所や自分の家、通っていた学校を一瞬にして失ってしまったということ考えると耐えられないです。

「情報発信のコツ」

- ・私は今、修学旅行の下調べで海運スポットや海運のお守りについて調べています。たくさんの資料の中から自分が「誰かに伝えたい。おもしろそうだな。」という情報をピックアップして修学旅行新聞の製作に活かしていきたいです。
- ・情報はたくさん集めた方がよく、一つのテーマをいろいろな角度で見ることが大切。自分が「面白い」「すごい」と思うものをまとめる。みんなが知らない情報を提供することで、読者が興味を持ってくれることがわかりました。

「成果」

様々な職種、立場の方のお話を聴く機会を設けた。生徒にとってすぐに役立つものばかりではなかったが、この後10年20年の間に生徒が直面するであろう問題について話題にして頂くことで、生徒も真剣に耳を傾けることができた。さらに、継続して講演会を行ってきたことで、講演会が自分たちの向き合わなければならない課題であるという認識は深まってきたように思われる。

また、体験者の話は単なる情報ではなく、生徒の心も揺さぶるため、どの生徒も話に対しての自分なりの考えを持つことができたように思う。

本年度は生徒に必要な情報を伝えることを目的としていたために受け身のプログラムとなることが多かったが、富岡町立第二中学校の村上順一校長先生との交流をきっかけに来年度は2校における交流教育を進めることが決定した。来年度は富岡町立第二中学校の生徒の発信の場を上手に設定し、発信された問題を2校の生徒で解決に向けて議論していくことができればと考えている。

また、今回のキャリア教育の推進によって若手教員が、生徒が置かれている状況を理解しようと努力している姿が見られた。これも成果として考えている。特に交流教育については若手教員に積極的に関わらせ、社会問題に関心を持たせていきたいと思う。